

## ○経堂池の利水状況

経堂池を水源とするほ場は過去に存在していたものの、RD処分場問題の発生により、当該ほ場の所有者らは他の水源を使い耕作をされている。

## ○経堂池における既往の水質等調査結果

栗東市では、経堂池の水質と底質および底生生物の調査を実施したほか、池の水を利用するほ場において水稻・玄米の調査を実施している。

以下に栗東市による調査結果の概要を示すとともに、次頁の表1.9に示す。

### <経堂池内の水質と底質について>

平成11年、平成12年および平成15年に実施され、人の健康の保護に係る項目（健康項目：カドミウム等25物質）では、ダイオキシン類も含めて基準を超過するものはなかった。

生活環境項目では、問題となるものは認められず、農業用水としての利用という観点からは、電気伝導率や全窒素が農業用水基準よりも高い値を示した。

### <水稻成育および玄米中の有害物質含有量について>

水稻の成育状況は、経堂池の水を用いたほ場と、対照ほ場として三ツ池の水を用いたほ場との比較検討結果がある。

上述のように経堂池の水質は電気伝導率や全窒素が高い傾向にあるが、両ほ場の水稻成育に有意な差は認めなかった。

玄米中の有害物質含有量は、上述の圃場のほか、十里地先のほ場とも比較検討された。その結果、ヒ素、銅、ダイオキシン類はいずれのほ場でも検出されたが、異常を認めるものではなかった。

### <底生生物について>

栗東市の調査によれば、経堂池上流の地点と中・下流域の底生生物環境を比較すると両者は異なる状態にあり、処分場からの排水は、池底質または生物相に影響を与えている可能性もあると推定されている。

表1.8 農業（水稻）用水基準  
[水稻の生育に対する水質汚濁の許容濃度]

項目	農業用水基準
pH（水素イオン濃度）	6.0～7.5
COD（化学的酸素要求量）	6mg/L以下
SS（浮遊物質）	100mg/L以下
DO（溶存酸素）	5mg/L以上
T-N（全窒素濃度）	1mg/L以下
EC（電気伝導率）	30mS/m以下
銅	0.02mg/L以下
亜鉛	0.5mg/L以下
ヒ素	0.05mg/L以下

\*) 農林水産省が昭和44年春から約1カ年間、汚濁物質別について「水稻」に被害を与えない限度濃度を検討し、学識経験者の意見も取り入れて、昭和45年3月に定めた基準で、法的効力はないが、水稻の正常な生育のために望ましいかんがい用水の指標とされている

表1.9(1) 経堂池水質等既往調査の結果(その1)

年月日	調査地点	調査項目		結果	総括																
		対象	項目																		
H11.09.08	経堂池RD排水口側	底質	健康項目(有害物質)、ダイオキシン類	含有量は水銀、鉛、クロム、ヒ素、セレンが検出されたが基準値以下。ダイオキシン類は基準値以下で0.17~20 pg-TEQ/g (n=2) を検出。 溶出量は、全て不検出。	底質および水質とも、異常を認める有害物質の存在は無かった。																
H11.11.07	経堂池RD排水口側	水質	健康項目(有害物質)、ダイオキシン類	ダイオキシン類他、有害物質の基準値超過なし。																	
H12.03.03~03.19	経堂池RD排水口側	水質	pH, BOD, COD, DO, 電気伝導率	pH : 7.9~8.4 (n=4) BOD : 17~14mg/L (n=4) COD : 40~37mg/L (n=4) DO : 6.8~7.7mg/L (n=4) 電気伝導率 : 20~210mS/m (n=4)	いずれの調査地点も、異常を認める項目は無かった。																
	経堂池中央	水質	n-ヘキサン抽出物質, ホウ素他8物質	ホウ素が0.3mg/L検出されたが、他物質の検出・基準超過はない。																	
	経堂池排水口側	水質	pH, BOD, COD, DO, 電気伝導率	pH : 7.4~7.5 (n=4) BOD : 1.2~7.8mg/L (n=4) COD : 7.0~8.0mg/L (n=4) DO : 6.4~9.2mg/L (n=4) 電気伝導率 : 65~69mS/m (n=4)																	
H12.11.28 12.09	経堂池(周囲5地点)	底生動物	水生昆虫(トンボ目, ミジンコなど)等	池の底質に含まれる人工物の量は上流で数が多い。 池上流と中・下流域では底生生物環境が異なる状態であると推定される。 池の水位が高くなると、この状態は顕著になると推定される。	経堂池上流の地点と中・下流域の底生生物環境を比較すると、両者は異なる状態にあり、処分場からの排水は、池底質または生物相に影響を与えている可能性もあると推定されている。																
H15.02.27	経堂池(中心)	水質	健康項目(有害物質)、ダイオキシン類、pH等生活環境項目	ダイオキシン類ほか、健康項目は全て不検出または基準値以下。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>pH (—)</td> <td>BOD (mg/L)</td> <td>COD (mg/L)</td> <td>SS (mg/L)</td> </tr> <tr> <td>7.0</td> <td>4.6</td> <td>9.0</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>全窒素 (mg/L)</td> <td>DO (mg/L)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>1.66</td> <td>9.0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> CODのみ農業用水基準値を超過。	pH (—)	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	SS (mg/L)	7.0	4.6	9.0	13	全窒素 (mg/L)	DO (mg/L)			1.66	9.0			経堂池の水には、人の健康に影響を及ぼす有害物質の存在は認めなかった。  また、生活環境項目についても異常は認めなかった。
pH (—)	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	SS (mg/L)																		
7.0	4.6	9.0	13																		
全窒素 (mg/L)	DO (mg/L)																				
1.66	9.0																				

表1.9(2) 経堂池水質等既往調査の結果(その2)

年月日	調査地点	調査項目		結果	総括																														
		対象	項目																																
H12.06.20 10.13	小野地先経堂池用水使用田(調査ほ場)	土壌	pH, 含水率, 可給態窒素	<table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <th>項目 / 日付</th> <th>06.20</th> <th>10.13</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">経堂池用水田</td> <td>pH (—)</td> <td>6.5</td> <td>6.0</td> </tr> <tr> <td>含水率 (wt %)</td> <td>29.3</td> <td>31.2</td> </tr> <tr> <td>可給態窒素 (mg/kg)</td> <td>47</td> <td>94</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">三ツ池用水田</td> <td>pH (—)</td> <td>6.6</td> <td>6.8</td> </tr> <tr> <td>含水率 (wt %)</td> <td>31.3</td> <td>31.4</td> </tr> <tr> <td>可給態窒素 (mg/kg)</td> <td>55</td> <td>98</td> </tr> </table>	項目 / 日付	06.20	10.13	経堂池用水田	pH (—)	6.5	6.0	含水率 (wt %)	29.3	31.2	可給態窒素 (mg/kg)	47	94	三ツ池用水田	pH (—)	6.6	6.8	含水率 (wt %)	31.3	31.4	可給態窒素 (mg/kg)	55	98	経堂池用水田、三ツ池用水田とも概ね正常値の範囲にあり、経堂池用水田の水質では、全窒素が高い傾向にあるが、異常は認めなかった。  CODは経堂池用水田、三ツ池用水田の水質とも農業用水基準値を超過した。							
	項目 / 日付	06.20	10.13																																
経堂池用水田	pH (—)	6.5	6.0																																
	含水率 (wt %)	29.3	31.2																																
	可給態窒素 (mg/kg)	47	94																																
三ツ池用水田	pH (—)	6.6	6.8																																
	含水率 (wt %)	31.3	31.4																																
	可給態窒素 (mg/kg)	55	98																																
小野地先三ツ池用水使用田(対照ほ場)	水質	pH, COD, SS, 全窒素, 銅, 亜鉛, ヒ素, 電気伝導率, DO	<table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <th>項目/場所</th> <th>経堂池用水田</th> <th>三ツ池用水田</th> </tr> <tr> <td>pH (—)</td> <td>6.4</td> <td>7.0</td> </tr> <tr> <td>COD (mg/L)</td> <td>7.3</td> <td>8.4</td> </tr> <tr> <td>SS (mg/L)</td> <td>7.6</td> <td>2.8</td> </tr> <tr> <td>全窒素 (mg/L)</td> <td>11.2</td> <td>0.69</td> </tr> <tr> <td>銅 (mg/L)</td> <td>不検出</td> <td>不検出</td> </tr> <tr> <td>亜鉛 (mg/L)</td> <td>不検出</td> <td>不検出</td> </tr> <tr> <td>ヒ素 (mg/L)</td> <td>不検出</td> <td>不検出</td> </tr> <tr> <td>電気伝導率 (mS/m)</td> <td>36</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>DO (mg/L)</td> <td>6.8</td> <td>7.1</td> </tr> </table>	項目/場所	経堂池用水田	三ツ池用水田	pH (—)	6.4	7.0	COD (mg/L)	7.3	8.4	SS (mg/L)	7.6	2.8	全窒素 (mg/L)	11.2	0.69	銅 (mg/L)	不検出	不検出	亜鉛 (mg/L)	不検出	不検出	ヒ素 (mg/L)	不検出	不検出	電気伝導率 (mS/m)	36	17	DO (mg/L)	6.8	7.1		
項目/場所	経堂池用水田	三ツ池用水田																																	
pH (—)	6.4	7.0																																	
COD (mg/L)	7.3	8.4																																	
SS (mg/L)	7.6	2.8																																	
全窒素 (mg/L)	11.2	0.69																																	
銅 (mg/L)	不検出	不検出																																	
亜鉛 (mg/L)	不検出	不検出																																	
ヒ素 (mg/L)	不検出	不検出																																	
電気伝導率 (mS/m)	36	17																																	
DO (mg/L)	6.8	7.1																																	
H12.10.12	小野地先経堂池用水使用田(調査ほ場)	水稻	稈長, 穂長, 籾重, 玄米重, わら重, 一穂もみすう, 籾数, 登熟歩合, 千粒重, 白米タンパク含有量	<table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <th>項目 / 場所</th> <th>経堂池用水田</th> <th>三ツ池用水田</th> </tr> <tr> <td>稈長 (cm)</td> <td>88.9</td> <td>83.4</td> </tr> <tr> <td>穂長 (cm)</td> <td>18.9</td> <td>19.2</td> </tr> <tr> <td>籾数(本/m<sup>2</sup>)</td> <td>430.8</td> <td>389.3</td> </tr> <tr> <td>玄米重(kg/10a)</td> <td>562.0</td> <td>558.3</td> </tr> <tr> <td>わら重(kg/10a)</td> <td>833.6</td> <td>760.0</td> </tr> <tr> <td>一穂籾数(粒)</td> <td>73</td> <td>85</td> </tr> <tr> <td>登熟歩合(%)</td> <td>80</td> <td>69</td> </tr> <tr> <td>千粒重(g)</td> <td>22.3</td> <td>22.3</td> </tr> <tr> <td>白米タンパク含有量(%)</td> <td>8.6</td> <td>8.1</td> </tr> </table>	項目 / 場所	経堂池用水田	三ツ池用水田	稈長 (cm)	88.9	83.4	穂長 (cm)	18.9	19.2	籾数(本/m <sup>2</sup> )	430.8	389.3	玄米重(kg/10a)	562.0	558.3	わら重(kg/10a)	833.6	760.0	一穂籾数(粒)	73	85	登熟歩合(%)	80	69	千粒重(g)	22.3	22.3	白米タンパク含有量(%)	8.6	8.1	経堂池用水田、三ツ池用水田とも草丈等全て正常値の範囲にあり、経堂池用水田の水質は、全窒素が高い傾向にあるが、収量等に差はなく異常は認めなかった。  経堂池用水田は三ツ池用水田と比較して、茎数が多い状態で推移し、稈長は長く倒伏も大きかったが、収量は両ほ場で差がなかった。
項目 / 場所	経堂池用水田	三ツ池用水田																																	
稈長 (cm)	88.9	83.4																																	
穂長 (cm)	18.9	19.2																																	
籾数(本/m <sup>2</sup> )	430.8	389.3																																	
玄米重(kg/10a)	562.0	558.3																																	
わら重(kg/10a)	833.6	760.0																																	
一穂籾数(粒)	73	85																																	
登熟歩合(%)	80	69																																	
千粒重(g)	22.3	22.3																																	
白米タンパク含有量(%)	8.6	8.1																																	
小野地先三ツ池用水使用田(対照ほ場)	玄米	健康項目(有害物質)、ダイオキシン類	<table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <th>場所</th> <th>ヒ素 (mg/kg)</th> <th>銅 (mg/kg)</th> <th>ダイオキシン類 (pg-TEQ/g)</th> </tr> <tr> <td>経堂池用水田</td> <td>0.21</td> <td>1.9</td> <td>0.015</td> </tr> <tr> <td>三ツ池用水田</td> <td>0.18</td> <td>0.59</td> <td>0.0078</td> </tr> <tr> <td>十里地先</td> <td>0.28</td> <td>3.9</td> <td>0.012</td> </tr> </table>	場所	ヒ素 (mg/kg)	銅 (mg/kg)	ダイオキシン類 (pg-TEQ/g)	経堂池用水田	0.21	1.9	0.015	三ツ池用水田	0.18	0.59	0.0078	十里地先	0.28	3.9	0.012																
場所	ヒ素 (mg/kg)	銅 (mg/kg)	ダイオキシン類 (pg-TEQ/g)																																
経堂池用水田	0.21	1.9	0.015																																
三ツ池用水田	0.18	0.59	0.0078																																
十里地先	0.28	3.9	0.012																																
H12.10.12	経堂池用水使用田(調査ほ場)	三ツ池用水使用田(対照ほ場)	十里地先水田	<table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <th>場所</th> <th>ヒ素 (mg/kg)</th> <th>銅 (mg/kg)</th> <th>ダイオキシン類 (pg-TEQ/g)</th> </tr> <tr> <td>経堂池用水田</td> <td>0.21</td> <td>1.9</td> <td>0.015</td> </tr> <tr> <td>三ツ池用水田</td> <td>0.18</td> <td>0.59</td> <td>0.0078</td> </tr> <tr> <td>十里地先</td> <td>0.28</td> <td>3.9</td> <td>0.012</td> </tr> </table>	場所	ヒ素 (mg/kg)	銅 (mg/kg)	ダイオキシン類 (pg-TEQ/g)	経堂池用水田	0.21	1.9	0.015	三ツ池用水田	0.18	0.59	0.0078	十里地先	0.28	3.9	0.012	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒ素、銅は滋賀県が1971-1978にかけて調査した結果と比較しても異常は認めなかった。</li> <li>ダイオキシン類は、耐用一日摂取量の約1/78の結果であり、問題ない結果であった。</li> </ul>														
場所	ヒ素 (mg/kg)	銅 (mg/kg)	ダイオキシン類 (pg-TEQ/g)																																
経堂池用水田	0.21	1.9	0.015																																
三ツ池用水田	0.18	0.59	0.0078																																
十里地先	0.28	3.9	0.012																																

(4) RD処分場におけるガスの発生状況とその影響 (硫化水素)

○処分場内

<表層ガス>

図 1.3 に平成 11 年 11 月～平成 12 年 1 月にかけて調査した、処分場内表層 (GL-0.8～1.0m) のガスにおける硫化水素の濃度分布を示す。

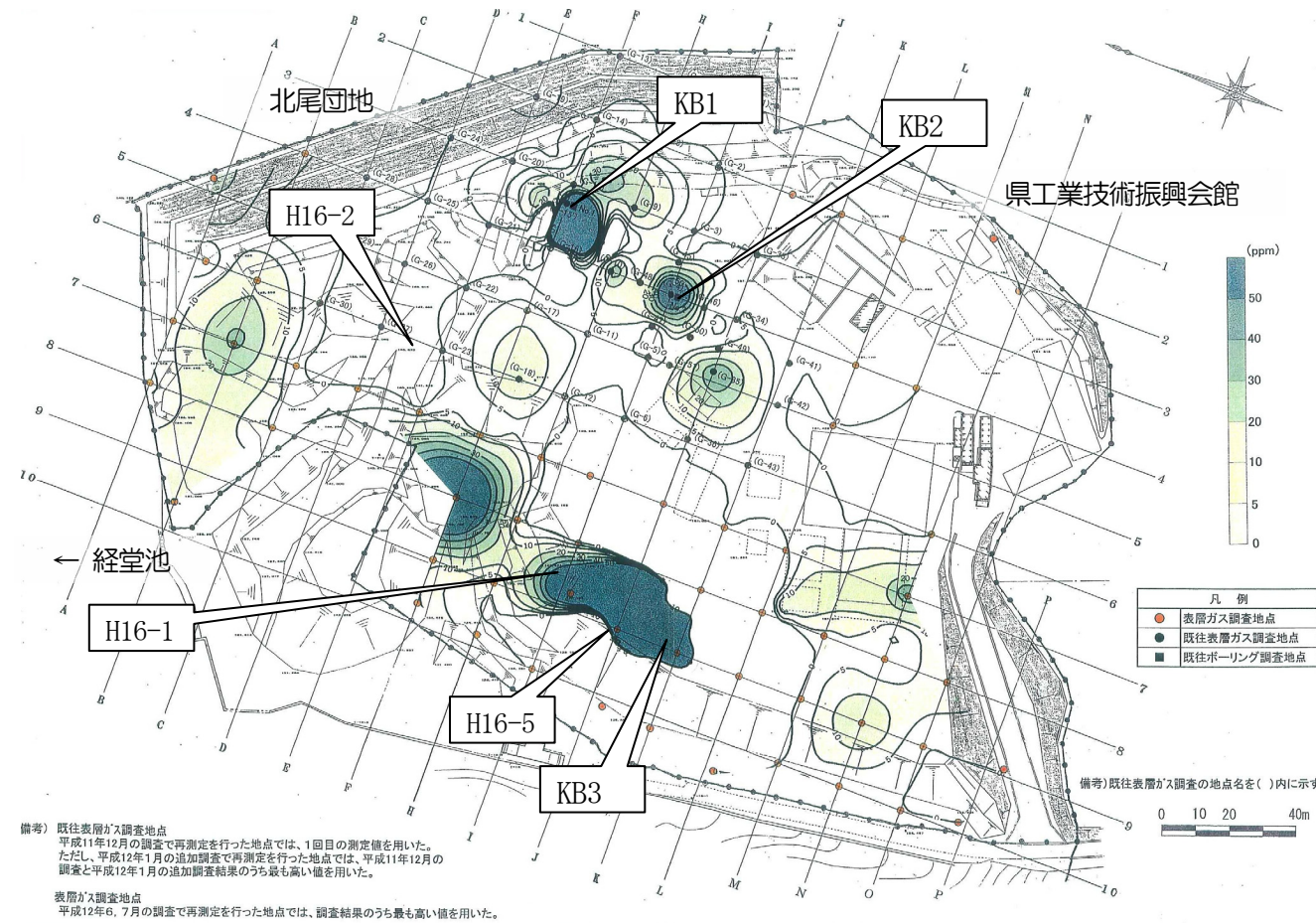


図 1.3 表層ガス中の硫化水素濃度の等濃度線図 (平成 11 年 11 月～平成 12 年 1 月測定)  
(平成 18 年 3 月実施の H16-1, H16-2, H16-5 の位置も併記)

硫化水素は 3 つの測定点周辺 (図中■の範囲は 100ppm を超える高濃度箇所) で 100ppm を超え、中でも K-9-5 (KB3) では 22,000ppm が検出された。

これら 3 つの測定点周辺では、ボーリング等によって表 1.10 に示す深度方向の濃度分布が確認され、嫌気性菌が水溶性有機物を利用して石膏ボードに含まれる硫酸イオンを還元し、硫化水素を発生させていることが明らかにされた。

これらの箇所では、廃棄物層中で発生する硫化水素を吸引・処理する対策を実施している。

表 1.10 ボーリング孔内ガス測定結果一覧表

・ボーリングKB1

測定日	測定時刻		深度 (GL. m)	孔内温度 (°C)	硫化水素 (ppm)	メタン (%)	酸素 (%)	備考
	孔内温度	ガス						
平成12年1月15日	10:00	10:36	-3.0	33.0	2.5	53	1.5	掘進翌朝測定 ※1
1月17日	8:45	9:11	-6.0	39.6	8,200	59	0.9	掘進翌朝測定 ※1
1月17日	14:42	14:58	-9.0	39.1	15,200	63	0.8	掘進終了直後測定
1月18日	8:44	9:08	-10.0	32.5	3,600	71	0.9	掘進翌朝測定
1月18日	11:04	11:55	-12.0	31.8	0	84	0.7	掘進終了直後測定
1月18日	14:52	15:26	-15.0	30.9	27.5	72	1.0	掘進終了直後測定
1月19日	8:25	8:58	-16.0	28.5	0	16	16.0	掘進翌朝測定
1月20日	8:49	9:06	-15.9	28.4	0	0.05	15.6	地下水位(GL-16.13m)直上約20cmで測定 ※2

・ボーリングKB2

測定日	測定時刻		深度 (GL. m)	孔内温度 (°C)	硫化水素 (ppm)	メタン (%)	酸素 (%)	備考
	孔内温度	ガス						
平成12年1月15日	13:31	13:33	-3.0	26.0	0	0.45	1.3	掘進終了直後測定
1月17日	9:34	9:55	-5.0	27.8	0	0	0.5	掘進翌朝測定
1月17日	12:17	12:42	-6.0	30.6	0	3	10.7	掘進終了直後測定
1月18日	8:06	8:28	-9.0	31.9	6.0	0	0.4	掘進翌朝測定 ※1
1月18日	13:18	13:55	-12.0	32.6	15.5	0	0.6	掘進終了直後測定
1月19日	8:45	9:37	-13.0	29.7	19.0	0	0.4	掘進翌朝測定
1月20日	9:15	9:30	-13.5	31.6	19.5	1	0.4	掘進翌朝測定
1月21日	8:24	8:40	-13.5	31.1	0	0	3.5	地下水位(GL-13.67m)直上約20cmで測定 ※2

※1 同一深度を2日間にわたって測定した場合は、高い値を採用した。  
※2 ケーシング(孔壁保護管)下端が、地下水面下にある状態のため参考値である。

表 1.10(2) ボーリング孔内ガス測定結果一覧表

・ボーリングKB3

測定日	測定時刻		深度 (GL. m)	孔内温度 (°C)	硫化水素 (ppm)	メタン (%)	酸素 (%)	備考
	孔内温度	ガス						
平成12年7月26日	12:35	12:45	-1.0	36.0	0	3.75	16.2	掘進終了直後測定
7月26日	15:08	15:17	-2.0	50.5	15,000	13.5	0.3	掘進終了直後測定
7月27日	8:40	8:52	-3.0	31.4	74	11.5	0.1	掘進翌朝測定
7月27日	9:55	10:07	-4.0	37.5	1	7.0	2.2	掘進終了直後測定
7月27日	11:02	11:09	-5.0	38.4	68	6.9	0.1	掘進終了直後測定
7月28日	14:44	14:15	-8.0	31.4	0	4.0	3.9	掘進終了直後測定
7月29日	14:18	14:28	-10.95	37.8	0	1.8	5.5	掘進終了直後測定
7月31日	13:45	13:20	-14.0	49.8	0	3.8	0.2	掘進終了直後測定
8月1日	13:30	13:15	-17.0	47.4	22	3.3	0.3	掘進終了直後測定
8月3日	8:39	9:00	-20.0	47.7	54	0.1	6.9	掘進翌朝測定
8月3日	-	13:05	-20.08	-	0	0	20.9	地下水位(GL-20.18m)直上約10cmで測定 ※1

※1 ケーシング(孔壁保護管)下端が、地下水面下にある状態のため参考値である。

<孔内（地中）温度>

表 1.11 にボーリング等掘削を行った調査地点における孔内温度の測定結果を示す。

地中温度について埋立地の中央東側にある KB1 及び KB2（平成 12 年測定）と H16-2（平成 18 年測定）を比較すると、平成 18 年のほうがわずかに低い傾向にある。一方、埋立地の中央西側に位置する KB3（平成 12 年測定）と H16-1 及び H16-5（平成 18 年測定）との比較では、平成 12 年と平成 18 年の地中温度に有意な差は認められない。

一般に地中温度は大気の年間平均気温に等しいといわれている。県内の気象観測所の中で当該処分場に最も近い滋賀県東近江の観測所の結果では、平均気温は 14.3℃（2006 年）である。したがって、埋立内部の地中温度は平均気温の約 2～3 倍の値を示しており、埋立完了後 6 年間を経た現在も減少傾向は認められていない。現時点では、埋め立てられた廃棄物の分解とそれに伴うガスの発生は継続していると判断される。

表 1.11 処分場内ボーリング等掘削調査時の孔内（地中）温度測定結果一覧

地点 KB1		地点 KB2		地点 KB3		地点 H16-1		地点 H16-2		地点 H16-5	
深度 [GL-m]	温度 [°C]	深度 [GL-m]	温度 [°C]	深度 [GL-m]	温度 [°C]	深度 [GL-m]	温度 [°C]	深度 [GL-m]	温度 [°C]	深度 [GL-m]	温度 [°C]
9.0	39.1	3.0	26.0	1.0	36.0	3.5	23.8	3.5	23.1	3.5	28.9
12.0	31.8	6.0	30.6	2.0	50.5	6.5	36.8	6.5	27.3	6.5	39.0
15.0	30.9	12.0	32.6	4.0	37.5	9.5	46.5	9.5	30.6	9.5	42.8
15.9	28.4	13.5	31.1	5.0	38.4	12.5	44.3	12.5	19.4	12.5	44.5
				8.0	31.4	15.5	45.0	15.5	34.6	15.5	44.0
				10.9	37.8	18.5	41.8	17.5	31.8	18.5	44.3
				14.0	49.8	19.2	40.5	21.5	31.6	19.5	44.0
				17.0	47.4						
平均温度：32.6℃		平均温度：30.1℃		平均温度：41.1℃		平均温度：39.8℃		平均温度：28.3℃		平均温度：41.1℃	
測定：平成12年 1/15～1/20		測定：平成12年 1/15～1/21		測定：平成12年 7/26～8/03		測定：平成18年 3/02～3/09		測定：平成18年 3/15～3/21		測定：平成18年 3/17～3/23	

○敷地境界・周辺環境

栗東市では平成 14 年 7 月と 8 月の 2 回、発生源 2 箇所（硫化水素の処理施設等）で処理後の排出ガスにおける硫化水素の濃度測定を実施したが、その結果、硫化水素は不検出であった。

また、同時に敷地境界（3 箇所）及び周辺地域（3 箇所）でも、大気中の硫化水素の濃度を測定したが、不検出であった。

表 1.12 平成14年度 (株)RDエンジニアリング産業廃棄物最終処分場周辺ガス調査委託業務

項目	単位	発生源 A						発生源 B						分析(検定)方法
		処理前	処理後	処理前	処理後	処理前	処理後	処理前	処理後	処理前	処理後	処理前	処理後	
測定年月日		02/7/23	02/7/23	02/8/5	02/8/5	02/8/5	02/8/5	02/8/5	02/8/5	02/8/5	02/8/5	02/8/5	02/8/5	
開始時刻		10:25	10:30	13:45	13:48	15:57	16:00	14:00	13:55	16:10	16:06			
終了時刻		10:26	10:31	13:46	13:49	15:58	16:01	14:01	13:56	16:11	16:07			
[気象条件]		晴												
天気		晴												
気温	°C	21.9~34.6	21.9~34.6	21.0~33.8	21.0~33.8	21.0~33.8	21.0~33.8	21.0~33.8	21.0~33.8	21.0~33.8	21.0~33.8	21.0~33.8	21.0~33.8	自記温度計
湿度	%	45~96	45~96	35~87	35~87	35~87	35~87	35~87	35~87	35~87	35~87	35~87	35~87	自記湿度計
気圧	hPa	993~997	993~997	991~998	991~998	991~998	991~998	991~998	991~998	991~998	991~998	991~998	991~998	自記気圧計
[分析結果]														
硫化水素	ppm	87	<0.5	120	<0.5	110	<0.5	79	<0.5	68	<0.5			環告第9号別表2
トリクロエチレン	mg/m³	0.063	0.055	0.020	0.010	0.015	0.011	0.10	0.043	0.0083	0.0024			気体捕集 (PET製バッグ)
テトラクロエチレン	mg/m³	0.10	0.080	0.011	0.0070	0.0088	0.0057	0.14	0.067	0.014	0.0030			GC-MS法
ベンゼン	mg/m³	1.5	1.1	1.3	0.65	1.1	0.69	0.70	0.52	0.32	0.071			

項目	単位	敷地境界						周辺地域						分析(検定)方法
		風上		風下①		風下②		北の山団地		北尾団地		中浮気団地		
開始年月日		02/7/23	02/8/5	02/7/23	02/8/5	02/7/23	02/8/5	02/7/23	02/8/5	02/7/23	02/8/5	02/7/23	02/8/5	
開始時刻		11:10	15:11	12:35	15:15	12:45	15:03	12:17	14:23	12:00	14:31	12:00	14:15	
終了年月日		02/7/24	02/8/6	02/7/24	02/8/6	02/7/24	02/8/6	02/7/24	02/8/6	02/7/24	02/8/6	02/7/24	02/8/6	
終了時刻		11:10	15:11	12:35	15:15	12:45	15:03	12:17	14:23	12:00	14:31	11:35	14:15	
[気象条件]		晴												
天気		晴												
気温	°C	21.9~34.6	21.9~34.6	21.0~33.8	21.0~33.8	21.9~34.6	21.0~33.8	21.9~34.6	21.0~33.8	21.9~34.6	21.0~33.8	21.9~34.6	21.0~33.8	自記温度計
湿度	%	45~96	35~87	45~96	35~87	45~96	35~87	45~96	35~87	45~96	35~87	45~96	35~87	自記湿度計
気圧	hPa	993~997	991~998	993~997	991~998	993~997	991~998	993~997	991~998	993~997	991~998	993~997	991~998	自記気圧計
[採取位置]														
高さ	m	1.5	0.5	1.5	0.5	1.5	0.5	1.5	0.5	1.5	0.5	1.5	0.5	
[分析結果]														
硫化水素	ppm	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	環告第9号別表2準拠
トリクロエチレン	mg/m³	0.0011	0.0010	0.0005	0.0015	0.0002	0.0006	0.0007	0.0007	0.0004	0.0009	0.0007	0.0018	キャニスター捕集
テトラクロエチレン	mg/m³	0.0013	0.0005	0.0010	0.0005	0.0008	0.0008	0.0007	0.0004	0.0011	0.0003	0.0008	0.0003	GC-MS法
ベンゼン	mg/m³	0.0023	0.0013	0.0020	0.0018	0.0021	0.0015	0.0020	0.0014	0.0018	0.0014	0.0019	0.0015	

注)1 分析方法は、環告第9号:特定悪臭物質の測定の方法(昭和47年5月30日 環告9)及び、有害大気汚染物質測定マニュアル(環境庁大気保全局大気規制課)に準じております。  
 注)2 測定地点の概略図は、添付資料に示します。  
 注)3 分析結果の有効数字の桁数は2桁で表示しております。



図 1.4 RDエンジニアリング産業廃棄物最終処分場 周辺ガス調査調査位置図